

がれき受け入れ賛否両論

多気町で
住民懇談会
環境省担当者ら説明



がれき処理説明会であいさつする久保行央町長(右中央)＝多気町の相可一区公民館で

【多気郡】多気町は十一日夜、震災がれき広域処理に伴う住民懇談会を相可一区公民館で開いた。環境省や県の担当者が実情や取り組み、安全性などを説明した。住民約三十人が参加し、受け入れに対して賛否両論が出された。

町長「助け合い、検討する」

同懇談会は四十九の自治会単位で開催が予定され、この日がスタート。受け入れを検討することが報道されて以来、役場には百通を超す反対メールが寄せられ、各戸に出所不明の反対ビラが配られているという。

懇談会冒頭、久保行央町長は「助け合いの精神で、わずかな量でも県のガイドラインに基づいて受け入れを検討したい。アンケートを含め、住民の意見を聞き、反対となれば前に進まない」と明言した。

環境省担当者は、災害廃棄物の広域処理の流れや安全性などについて説明。

灰の処分先は県が責任持つ、焼却施設の予算が付いたばかり、環境省は仮説焼却炉の建設は用地確保が難しいーなどと答えた。

(山下三男)